

集会案内

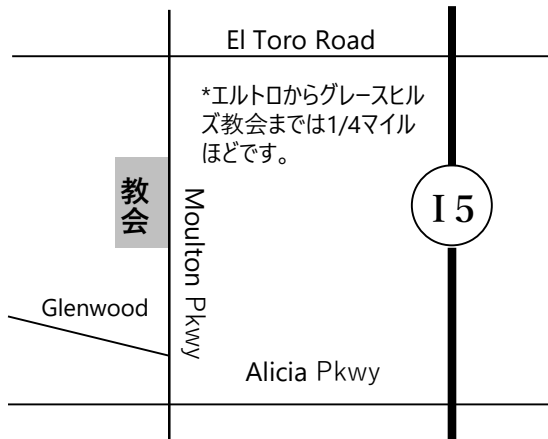
毎日曜日： 祈 禱 会 1 : 1 5 p m - 1 : 4 5 p m
礼 拝 2 : 0 0 p m - 3 : 2 0 p m
茶 菓 3 : 3 0 p m - 3 : 5 0 p m
聖書研究 4 : 0 0 p m - 4 : 5 0 p m

毎月1回：家庭集会 ラグナ・ウッズ、又はアーバイン
10 : 30 a m ~ 昼食

教会住所： c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637

- ◎ 私達の礼拝は第1バプテスト教会グレース・ヒルズ教会堂内のチャペルで行なっています。
- ◎ 子供たちのためのサンデー・スクールもあります。また、遊具等の設備も豊かに整っております。
- ◎ 13年前に始まった日本語教会です。どなた様もお気軽にお出かけ下さい。

教会の地図



ホームページ: www.irvinenihongokyokai.org

 Irvine Nihongo Kyokai

連絡先:

杉村 宰 牧師 電話：(714) 527-1456
Eメール: sugimura1950@gmail.com
田畑 彰 牧師 電話：(949) 701-6502
Eメール: mt.moriya77@gmail.com

◎ 『石叫』◆ 「一通の手紙」

今、上村功子先生の自伝を書いている。その中で彼女から少なからぬ感化を受けた人々がいる。その中の一人がオレンジ郡教会の榎原宣行牧師である。上村功子夫人の夫、和男師が東京聖書学院の卒業をまじかにした一九八九年末頃のことだ。功子さんの聖書学院時代の二年下に榎原邦子さんがいる。功子さんと共に祈り、共に励まし合ってきた間柄であった。彼女には長男、宣行君がいて、彼の進路について思い悩んでいた。生業(なりわい)としていたロックバンドの活動が挫折し、生きる目的を失っていた。そこで思い切った功子さんに電話をすることにした。「功子さん、宣行のために祈って」。彼女は何かあったのかも聞かずに「わかったよ。くに、祈ってるよ」。それだけで会話は終わった。それから数日後、功子さんは宣行青年にクリスマスカードを送った。そこには、彼のために祈っていること、一度しかない貴重な青春時代を大切に生きて欲しいこと、などが書かれていた。そして最後に「クリスマスをおめでとう。新年聖会で待ってるね」とあった。そのカードに誘われるまま、宣行青年は東京聖書学院で開かれた聖会に出たのである。二世代にわたつての牧師家庭ということもあり、イエス様を信じて洗礼まで受けてはいたが、もう一度、主と出逢い、献身にまで導かれ、東京聖書学院に入学したのである。宣行青年二十三歳のことだった。そして今は、われらがオレンジ郡教会の牧師として主に仕えている。宣行青年に差し出された功子さんの手紙は、三十年近く経った今も彼の愛用の聖書にはさんである。悲惨な事故で召された彼より四歳下の良哉の分まで宣行を用いてください、と両親は必死の叫びと祈りをもって執り成してきたのだが、それ以上に、功子さんの一通の手紙は、主ご自身が熱きパッションをもって宣行青年に語り掛けた献身への招きそのものでもあった。

主イエスは最後の晩餐でペテロに「わたしはあなたの信仰がなくなるらないように、あなたのために祈った」(ルカ二二・32)と語る。その祈りゆえにペテロは主を裏切っても、再び立ち上がることができたのだ。今、私たちに主から送られた聖書がある。そこには主がどれだけ私たちを愛されたかが記されている。それはあなたがそこから立ち上がり、主の愛に應えるためであった。

Rev. Takasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村宰牧師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。